

第4章 アンケート調査結果

この章では、令和5年度に千葉県教育委員会において、30日以上学校を欠席した児童生徒とその保護者、フリースクール等に対し実施した「不登校児童生徒等実態調査」（参考資料 P209 参照）及び、本事業『フリースクール等に関するモデル事業』で選定された5つの事業者が、それぞれ利用している児童生徒や保護者に対し実施したアンケート調査の項目を抜粋し、児童生徒や保護者がフリースクール等に何を求めているか、またフリースクール等の置かれている現状等について触れたい。

なお、「不登校児童生徒等実態調査報告書」においては、詳細な調査項目とともに、千葉県における今後の不登校児童生徒への支援策の提言も記載されているので、そちらも参照されたい。

1 不登校児童生徒等実態調査（令和5年度千葉県教育委員会実施）

千葉県が行ったアンケート調査の概要は以下のとおりである。

（1）調査目的

県内の不登校児童生徒が不登校となったきっかけや、不登校期間中の支援へのアクセス状況、児童生徒及び保護者の支援ニーズを把握する。

（2）調査対象

令和4年度（小学校1年生・中学校1年生の場合は令和5年度）に、30日以上学校を欠席した児童生徒及びその保護者。

（3）調査期間

令和5年12月13日（水）～令和6年1月22日（月）

（4）調査方法

WEBアンケート調査にて実施した。

（5）回答数

児童生徒用調査 1,753 件、保護者用調査 1,775 件

（6）留意事項

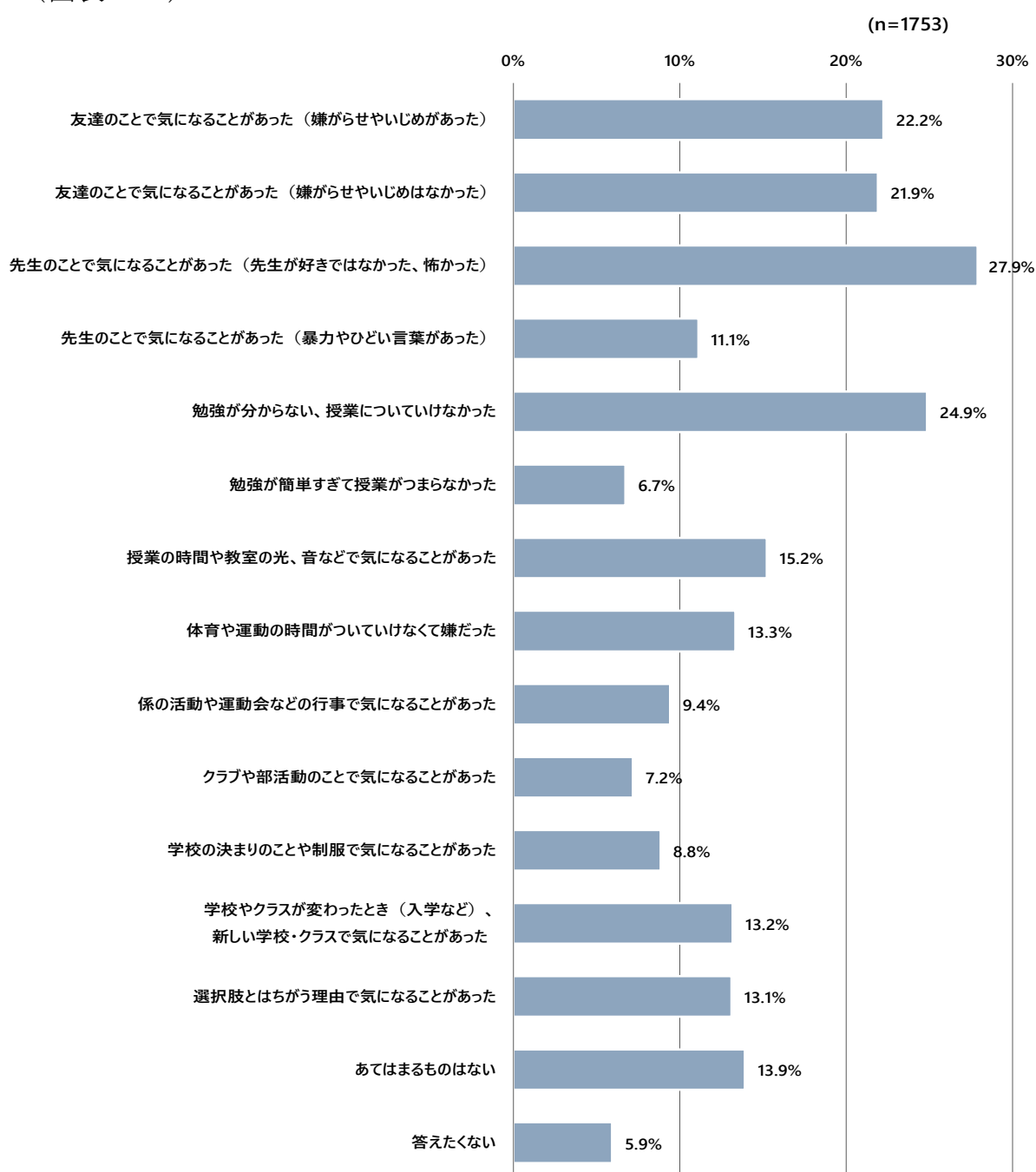
- ・回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率（％）で示している。それぞれの質問の回答者数は、n と表記している。
- ・％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも 100％にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、％の合計は 100％を超えることがある。
- ・各設問の選択肢が長い場合、選択肢を省略して記載している場合がある。
- ・クロス集計の際、表側に来る項目（クロス軸）に無回答や「答えたくない」という回答があった場合、分析軸からは除外している。

①児童生徒向けアンケート調査結果から

(13) 学校に「行きたくない」と思ったきっかけ (学校のこと)

学校のことで学校に「行きたくない」と思ったきっかけを尋ねたところ、「先生のことで気になることがあった（先生が好きではなかった、怖かった）」の割合が最も高く 27.9%である。次いで、「勉強が分からない、授業についていけなかった（24.9%）」、「友達のことで気になることがあった（嫌がらせやいじめがあった）（22.2%）」である。

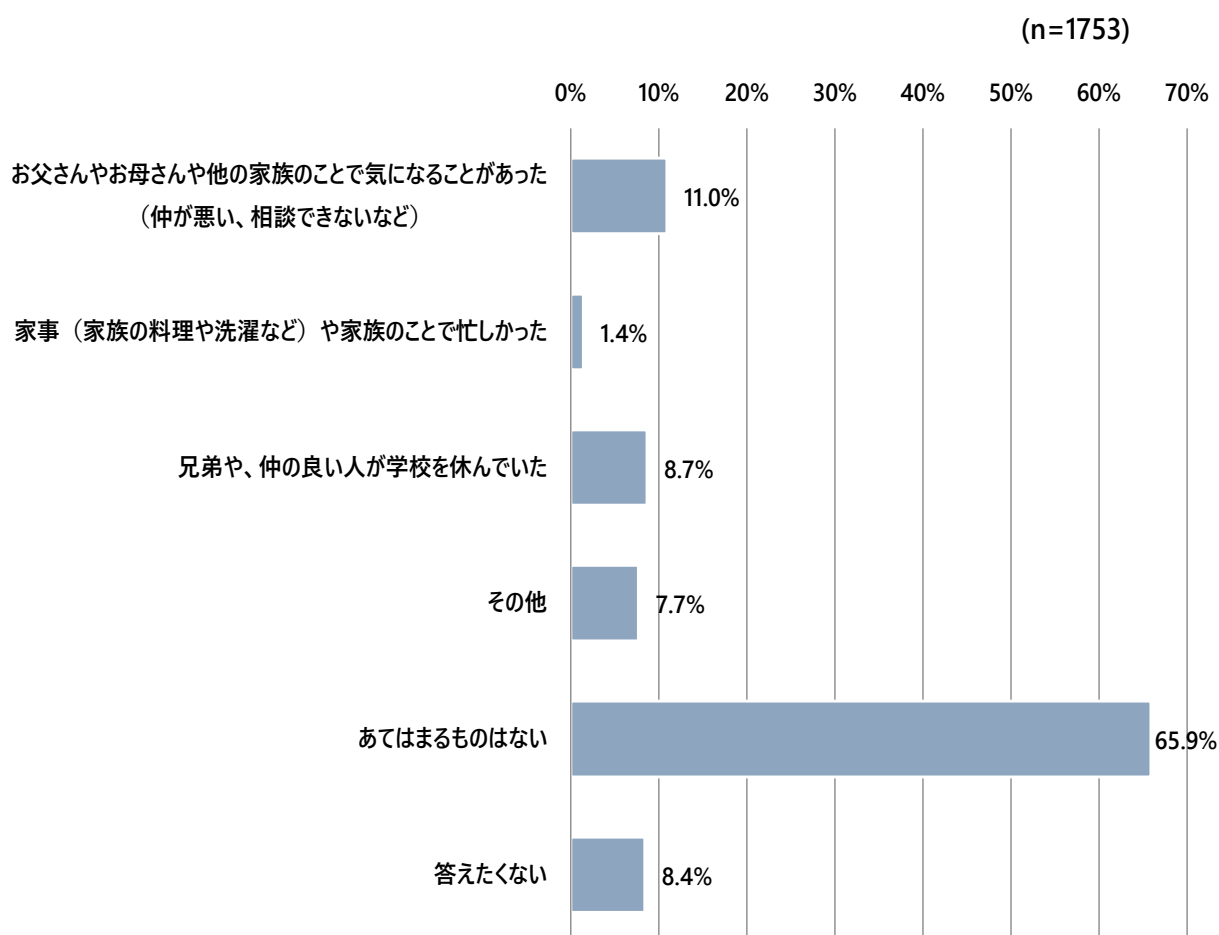
(図表 7 4)



(14) 学校に「行きたくない」と思ったきっかけ（家のこと）

家のことで学校に「行きたくない」と思ったきっかけを尋ねたところ、「あてはまるものはない」の割合が最も高く 65.9%である。次いで、「お父さんやお母さんや他の家族のことで気になることがあった（仲が悪い、相談できないなど）（11.0%）」、「兄弟や、仲の良い人が学校を休んでいた（8.7%）」である。

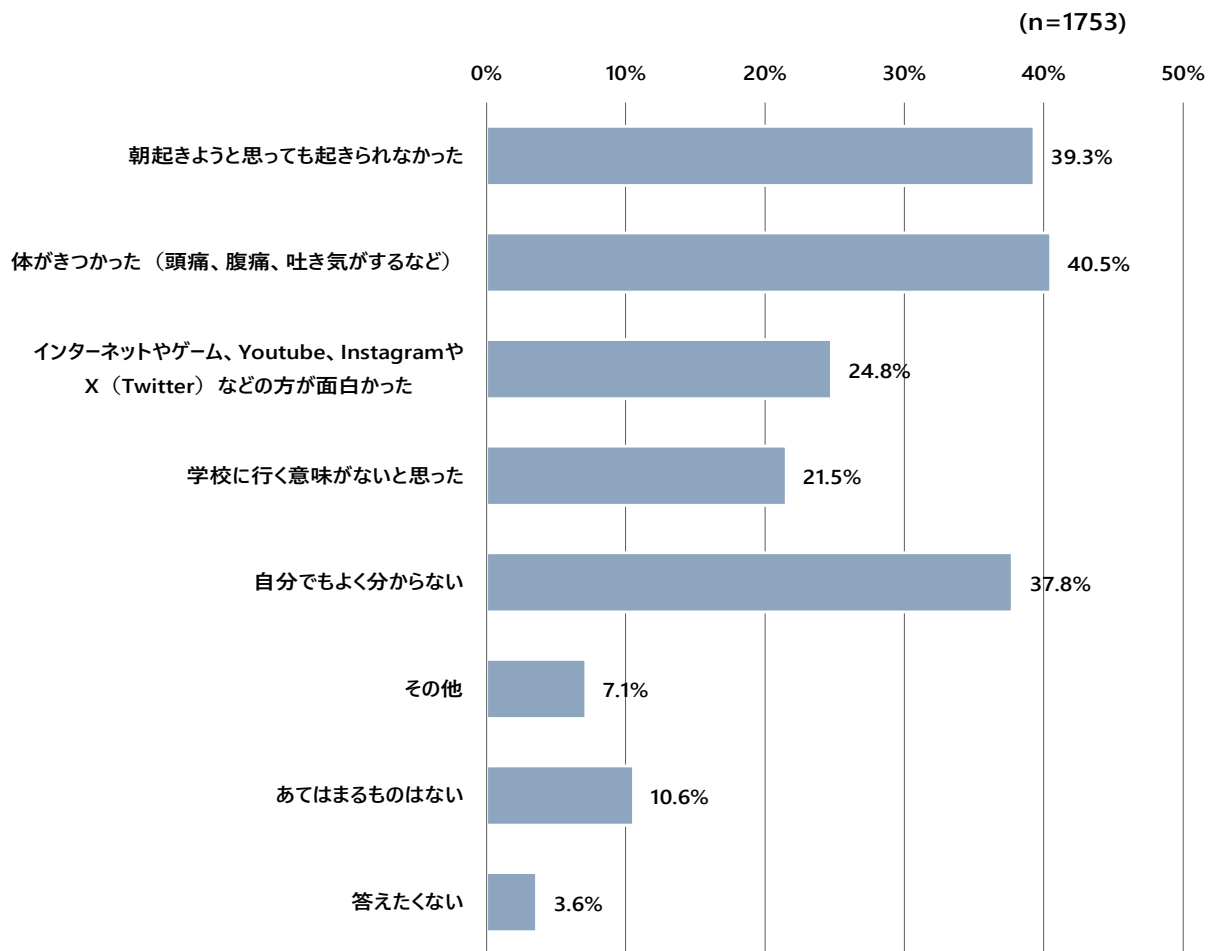
（図表 7 6）



(15) 学校に「行きたくない」と思ったきっかけ（自分のこと）

自分のことで学校に「行きたくない」と思ったきっかけを尋ねたところ、「体がきつかった（頭痛、腹痛、吐き気がするなど）」の割合が最も高く 40.5% である。次いで、「朝起きようと思っても起きられなかった（39.3%）」、「自分でもよく分からない（37.8%）」である。

(図表 78)



本アンケート調査が全ての不登校児童生徒から回答を得ているわけではないが、これらの結果から、学校に「行きたくない」と思ったきっかけが実に多様であり、明確なきっかけを答えられずに「自分でもよく分からない」としている児童生徒も 40% 近くいることが分かった。

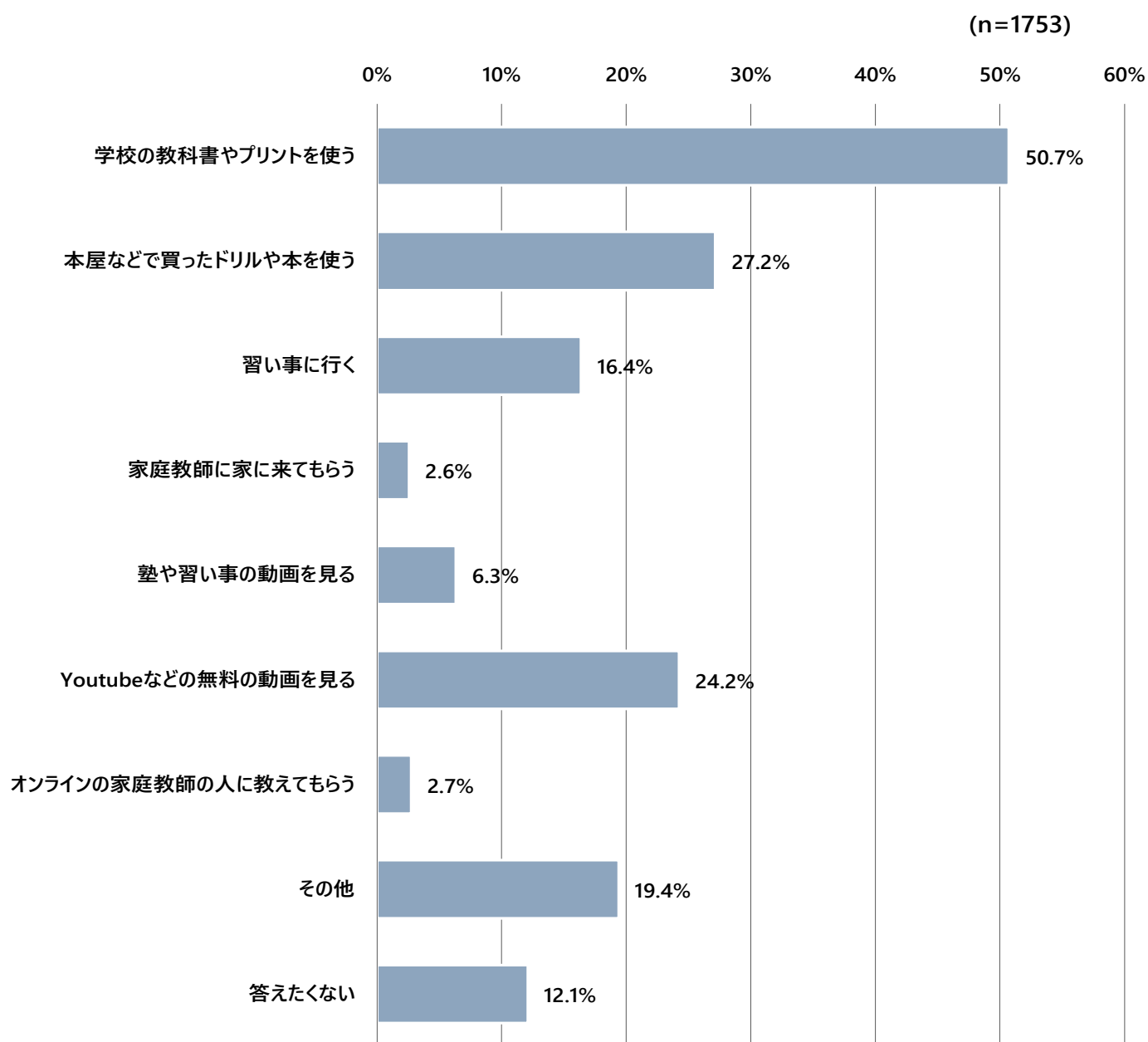
不登校の理由や児童生徒の実態が様々であるがゆえに、フリースクール等に

求めること（学習支援、居場所、体験重視等）は多岐に渡ることが推察される。

（２３）学校を休んでいるとき、どんなやり方で勉強をしていたか

学校を休んでいるとき、どんなやり方で勉強していたかを尋ねたところ、「学校の教科書やプリントを使う」の割合が最も高く 50.7%である。次いで、「本屋などで買ったドリルや本を使う（27.2%）」、「Y o u T u b e などの無料の動画を見る（24.2%）」である。

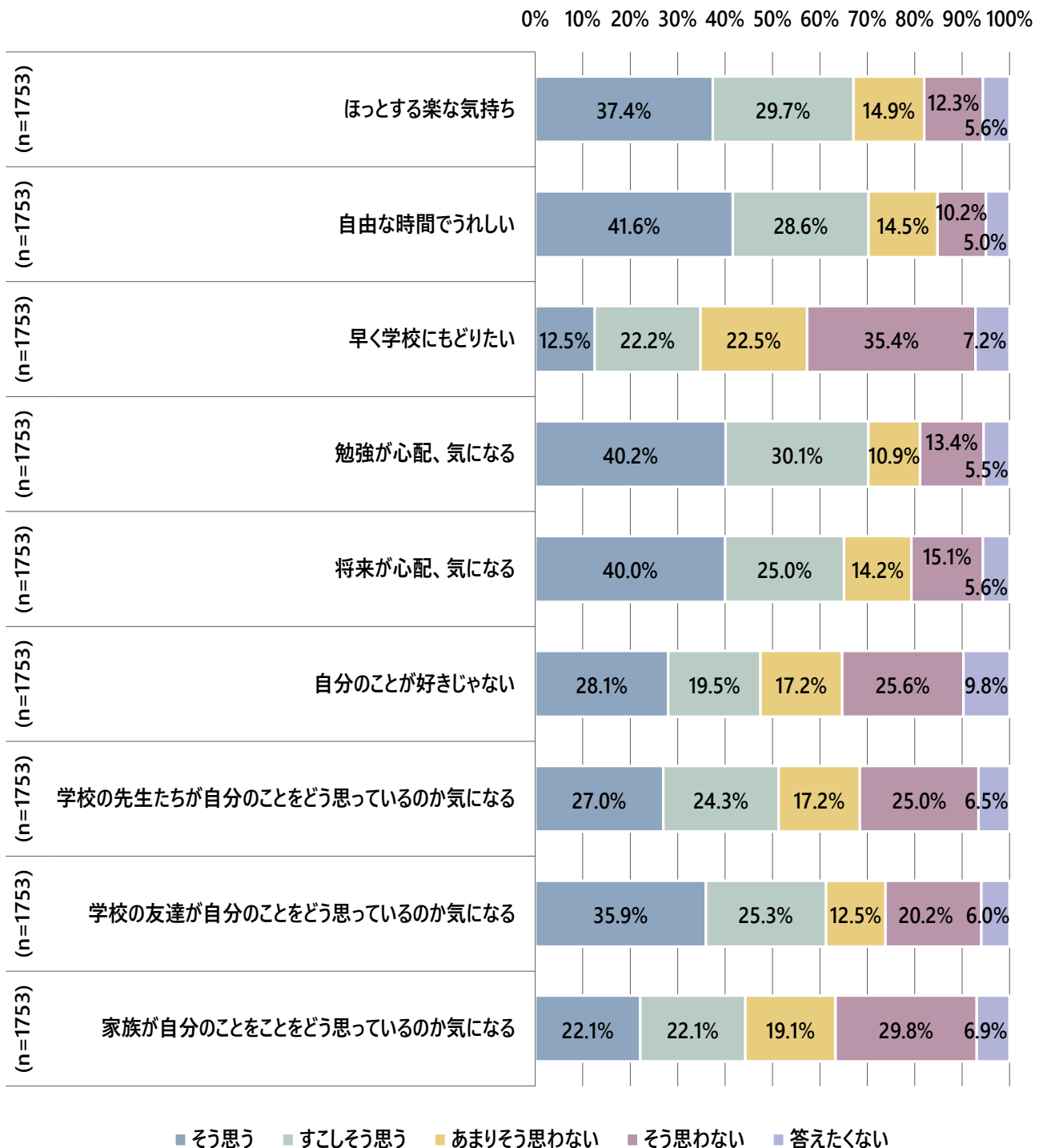
（図表 1 0 3）



(26) 学校を休んでいるときの気持ち

学校を休んでいるときに、どんな気持ちになるか尋ねた。「そう思う」と「すこしそう思う」の割合の合計に着目すると、「勉強が心配、気になる」における割合が最も高く 70.3%である。次いで、「自由な時間でうれしい (70.2%)」「ほっとする楽な気持ち (67.1%)」である。

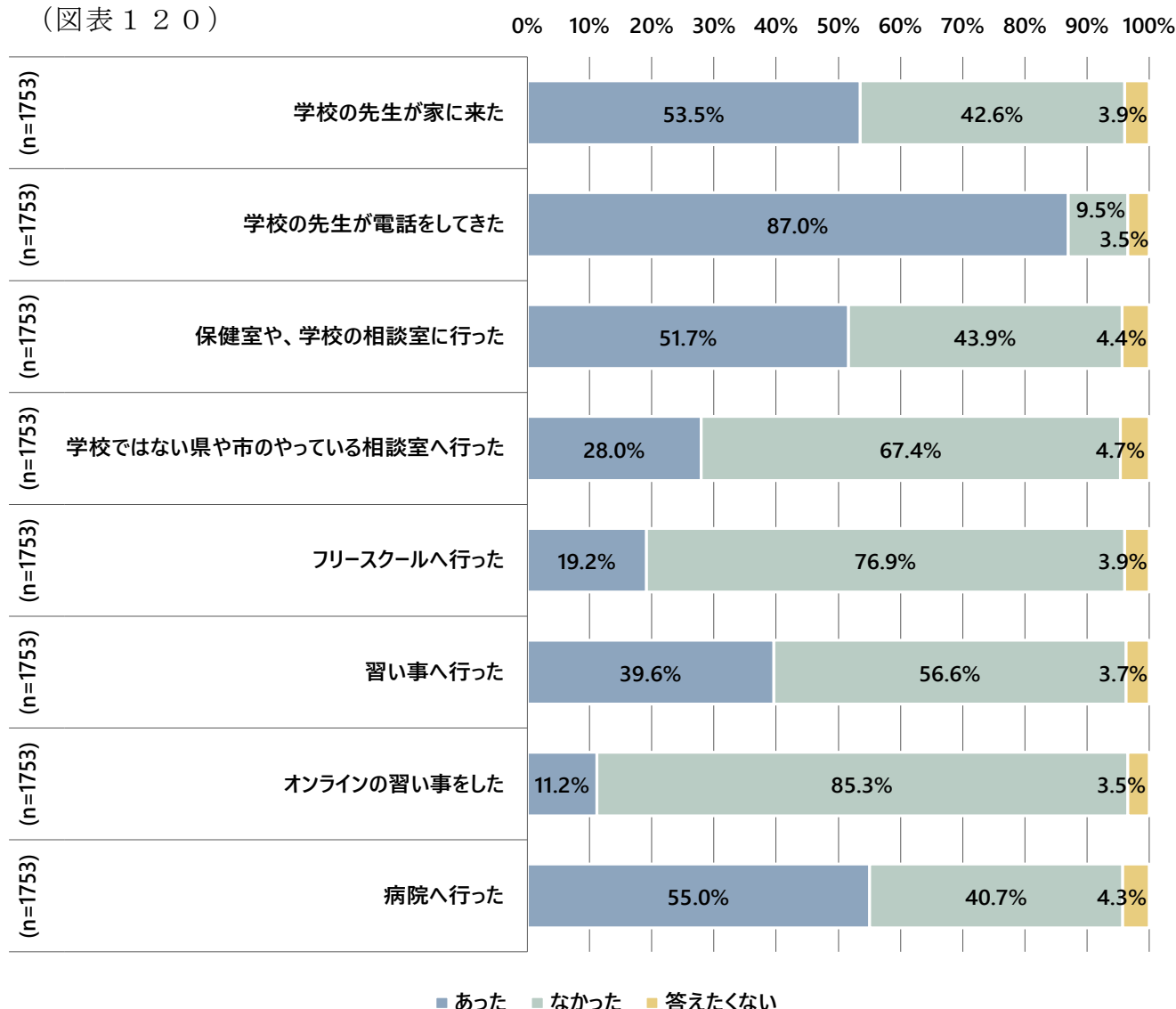
(図表 110)



(27) 学校を休んでいるときにあった・行ったこと

学校を休んでいるときに、次のようなことがあったか・行ったかを尋ねた「あった」の割合に着目すると、「学校の先生が電話をしてきた」の割合が最も高く 87.0%である。次いで、「病院へ行った (55.0%)」、「学校の先生が家に来た (53.5%)」「保健室や、学校の相談室に行った (51.7%)」である。

(図表 120)



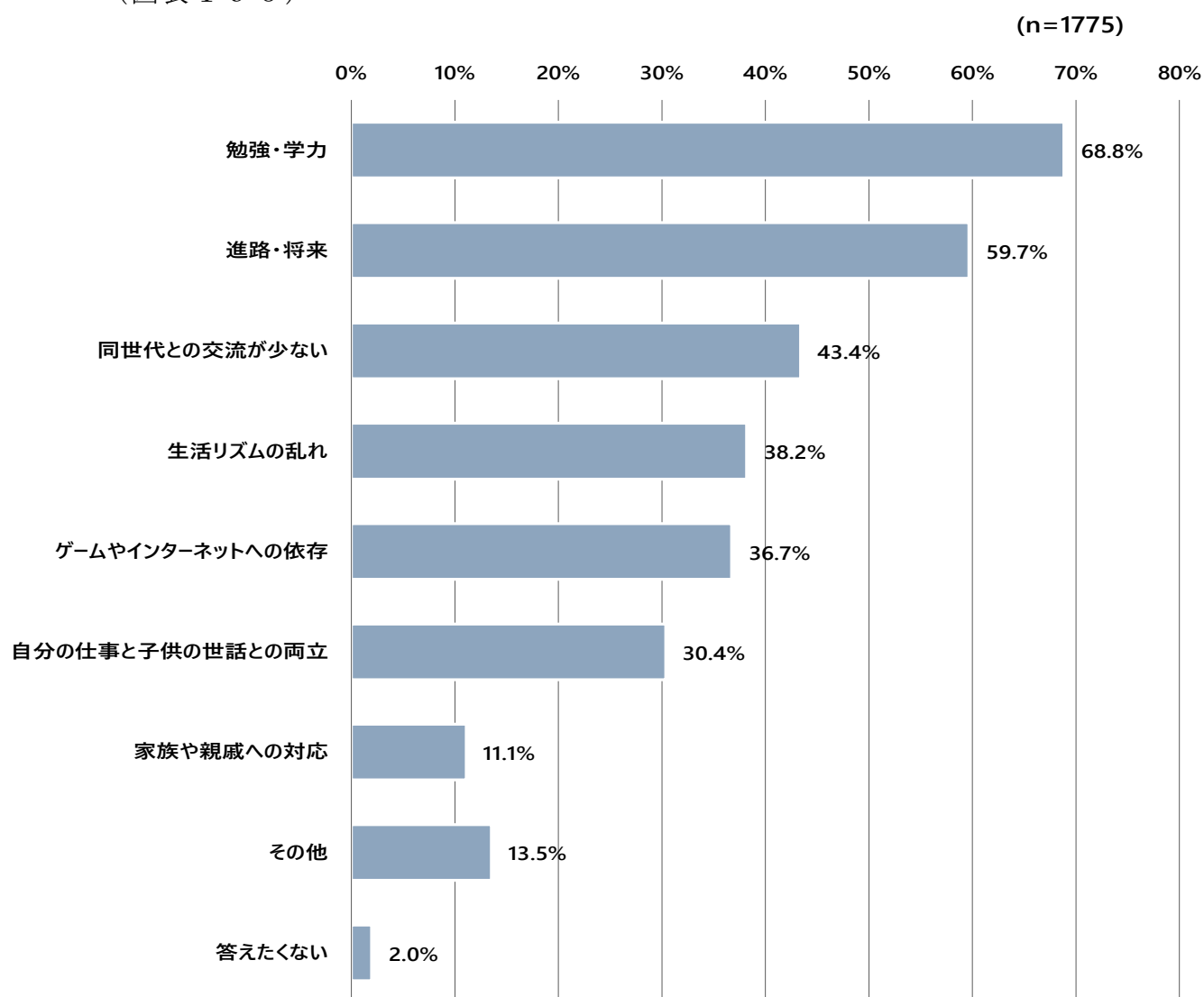
学校を休んでいるときに、学校から離れることで安心感を得ている児童生徒がいる一方、勉強について心配したり気になったりしている児童生徒が70%を超えている。しかしながら、学校外の教育機会や居場所につながった割合は他の選択肢と比べて相対的に低く、自治体の相談室へ行った、フリースクールへ行ったという割合は20~30%程度となっている。具体的な学習方法としては、学校の教科書やプリント、本屋などで買ったドリル、無料動画等を活用しているとの回答が多かったが、分からないときに質問できる状況ではなく、学習を継続していくには困難が伴っていたのではないかと推察される。

②保護者向けアンケート調査結果から

(11) 今、子供のことで困っていること

今、子供のことで困っていることについて尋ねたところ、「勉強・学力」の割合が最も高く 68.8%である。次いで、「進路・将来 (59.7%)」、「同世代との交流が少ない (43.4%)」である。

(図表 196)

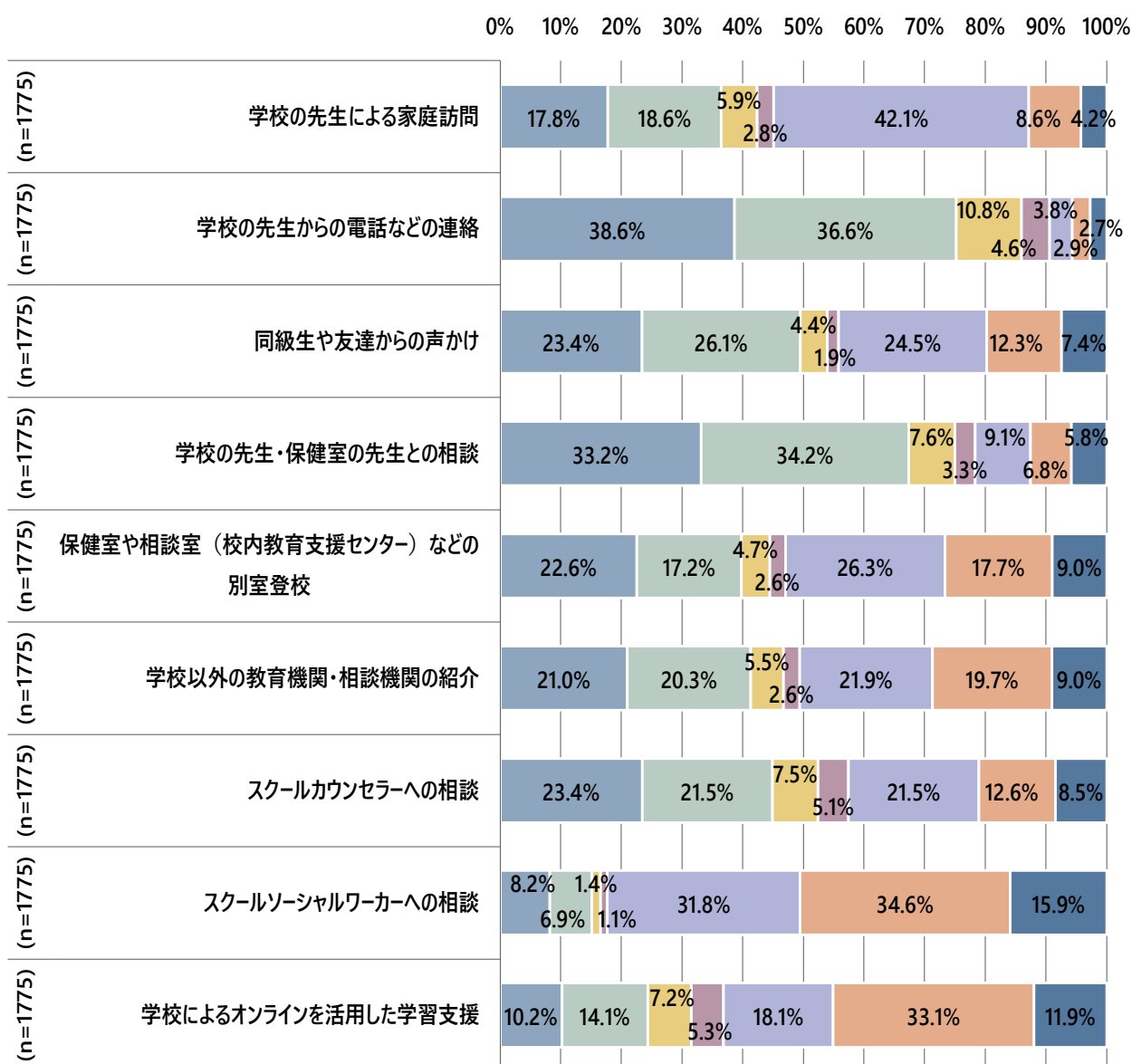


保護者は子供が学校に行かないことにより、「勉強・学力」、「進路・将来」「世代との交流」について困っていたり心配していたりするが、逆に言えばこれらのことを十分に補いたいと望んでいると言える。

(12) 学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価

学校を休んでいるときにあった・行ったこととその評価を尋ねた。「行われた／よかった」と「行われた／どちらかといえばよかった」の割合の合計に着目すると、「学校の先生からの電話などの連絡」における割合が最も高く75.2%である。次いで、「学校の先生・保健室の先生との相談（67.4%）」、「スクールカウンセラーの相談（44.9%）」である。

(図表198)

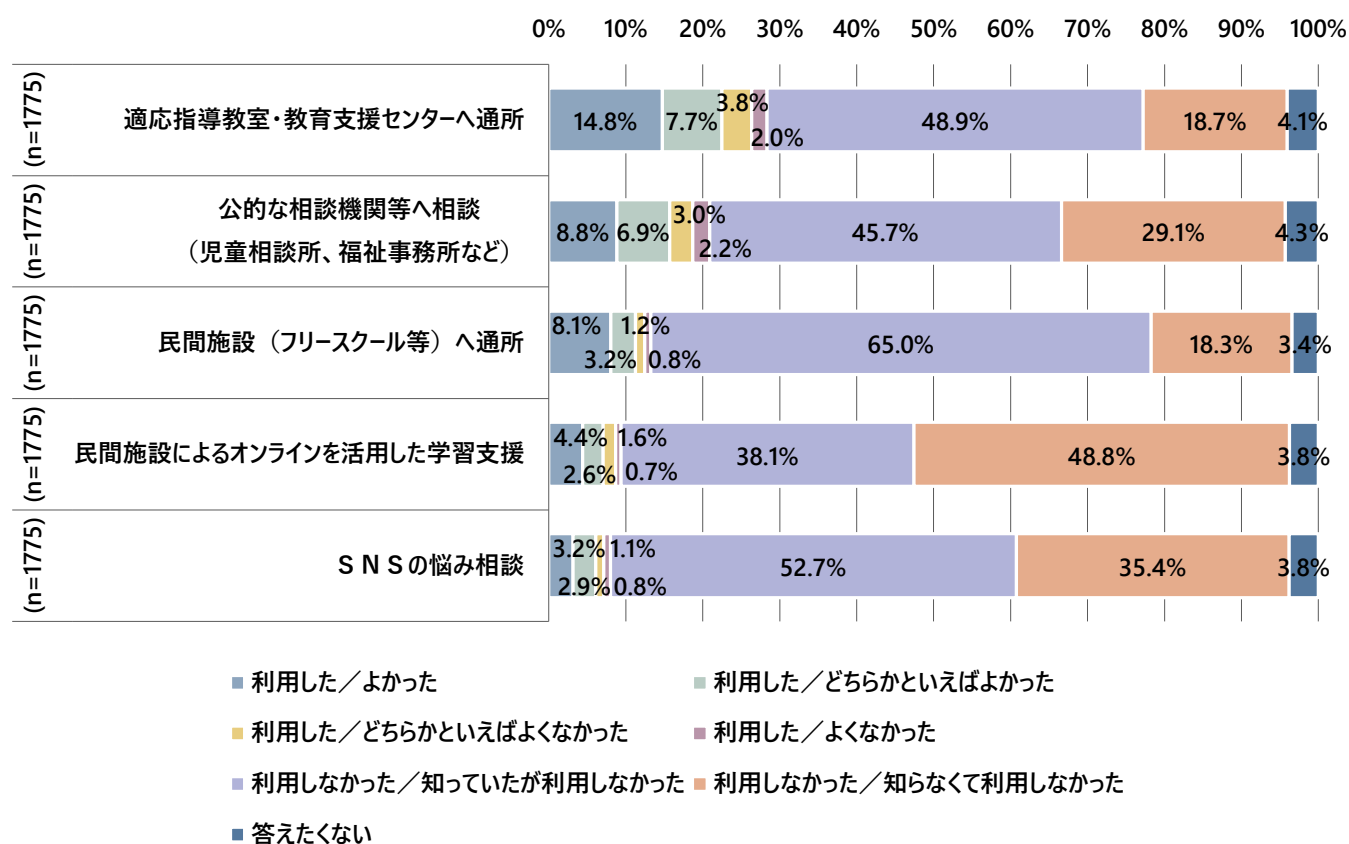


- 行われた／よかった
- 行われた／どちらかといえばよかった
- 行われた／どちらかといえばよくなかった
- 行われた／よくなかった
- 行われなかった／行われなくてよかった
- 行われなかった／行われず残念
- 答えたくない

(13) 学校を休んでいる間の支援機関の利用とその評価

学校を休んでいるときの支援機関の対応とその評価を尋ねた。「利用した／よかった」と「利用した／どちらかといえばよかった」の割合の合計に着目すると、「適応指導教室・教育支援センターへ通所」における割合が最も高く22.5%である。次いで、「公的な相談機関等へ相談（児童相談所、福祉事務所など）（15.7%）」、「民間施設（フリースクール等）へ通所（11.3%）」である。

(図表208)

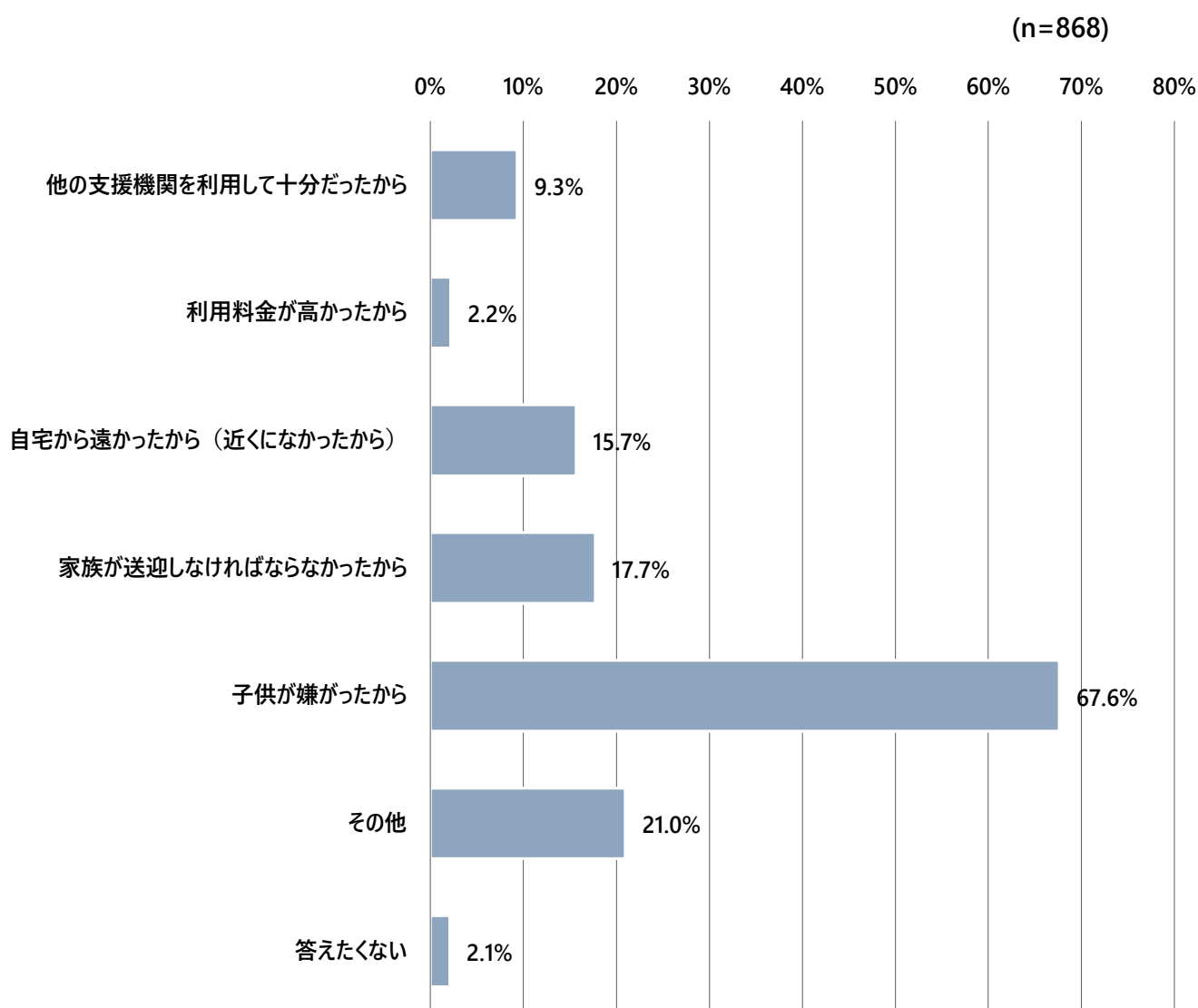


適応指導教室・教育支援センター、民間施設（フリースクール等）へ通所したり、公的な相談機関等へ相談したりすることで、先に述べた「勉強・学力」、「進路・将来」、「同世代との交流」といった保護者の心配が、多少は解消されていたのかもしれない。または、解消するために利用していたのかもしれない。

(14) 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由：適応指導教室・教育支援センターへ通所

支援機関を知っていたが利用しなかった理由について尋ねたところ、「子供が嫌がったから」の割合が最も高く、67.6%である。次いで、「その他(21.0%)」、「家族が送迎しなければならなかったから(17.7%)」である。

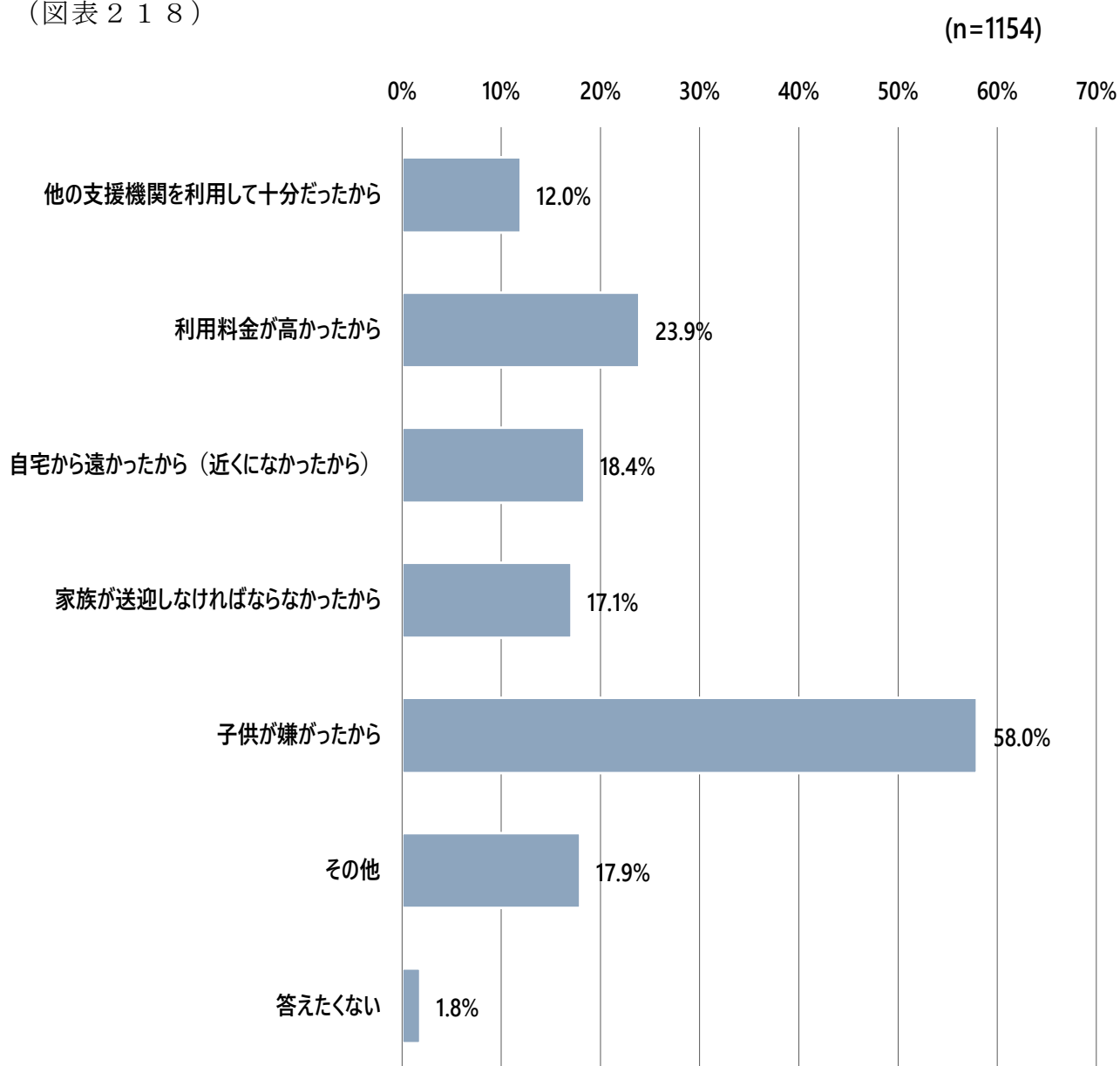
(図表 2 1 4)



(16) 支援機関を「知っていたが利用しなかった」理由：民間施設（フリースクール等）へ通所

支援機関を知っていたが利用しなかった理由について尋ねたところ、「子供が嫌がったから」の割合が最も高く 58.0%である。次いで、「利用料金が高かったから（23.9%）」、「自宅から遠かったから（近くになかったから）（18.4%）」である。

(図表 2 1 8)

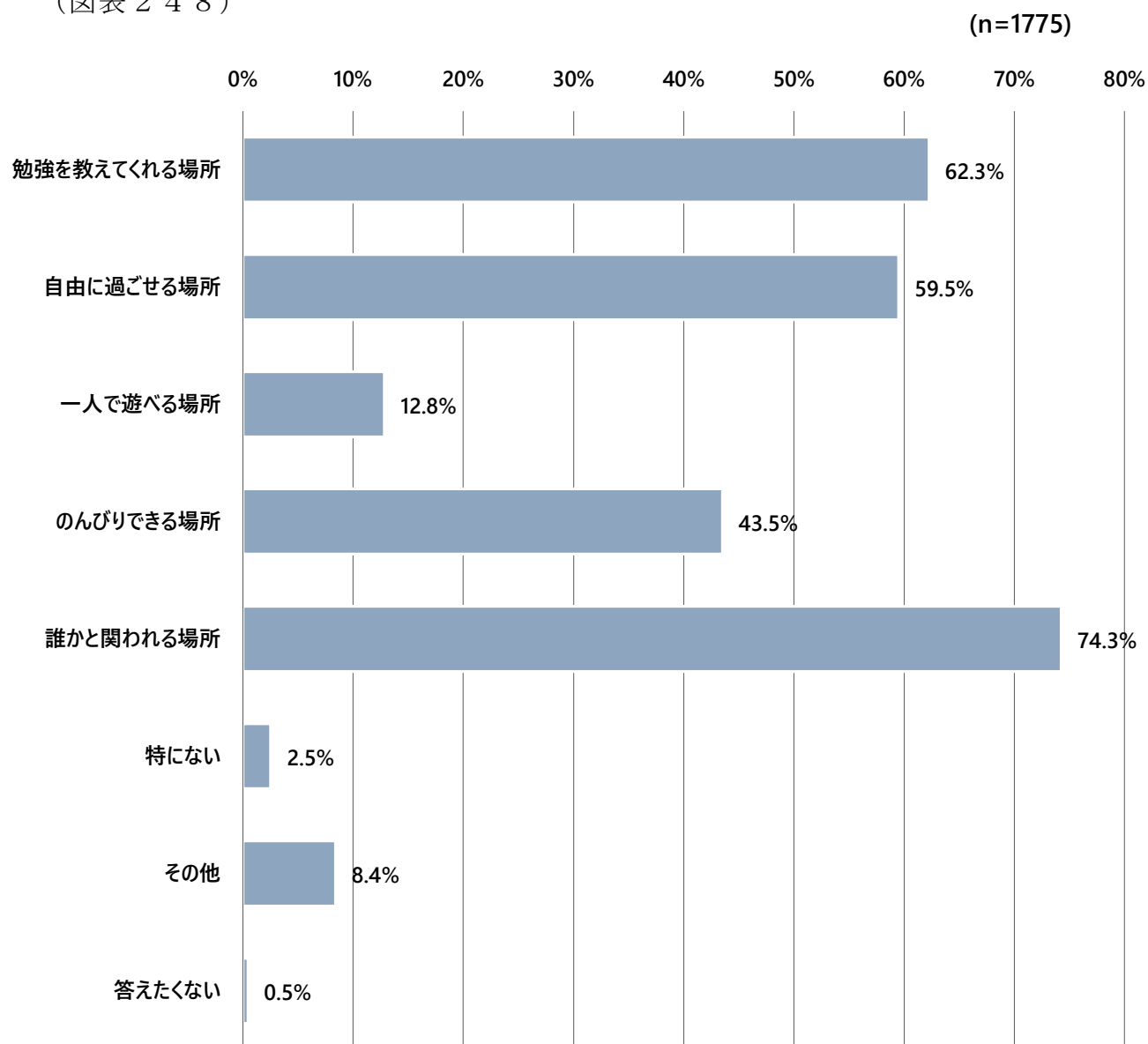


「子供が嫌がったから」を除くと、支援機関の利用に際し、家族の送迎、自宅から遠い、利用料金が低いという課題が浮き彫りになった。

(30) 学校を休んでいる時、どのような場所で過ごさせたいか(自宅以外)

自宅以外で学校を休んでいる時、子供をどのような場所で過ごさせたいかについて尋ねたところ、「誰かと関われる場所」の割合が最も高く 74.3%である。次いで、「勉強を教えてくれる場所(62.3%)」、「自由に過ごせる場所(59.5%)」である。

(図表 248)



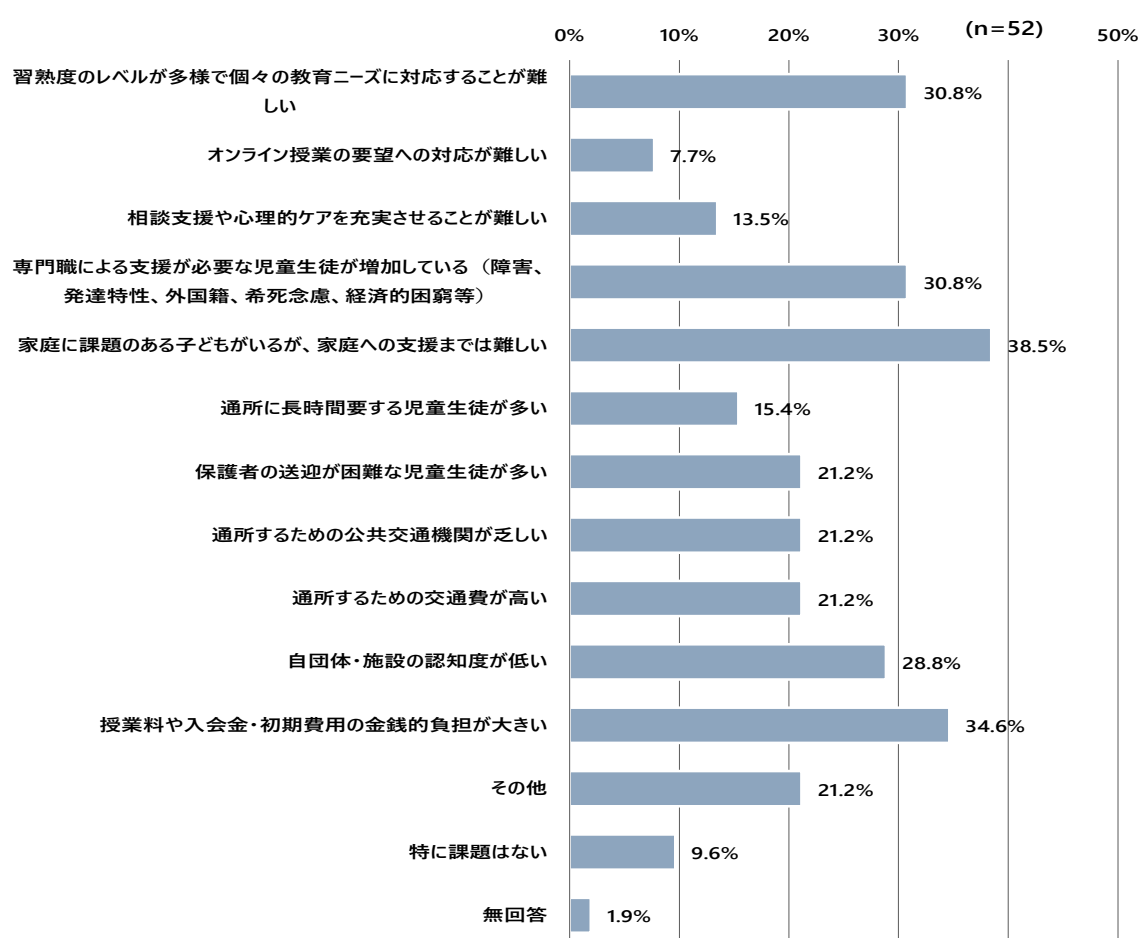
子供が学校に行かないことで保護者が心配していた3点「勉強・学力」、「進路・将来」、「同世代との交流」に加えて、子供が安心していられる居場所としての機能を求めていることが分かる。

③フリースクール等民間団体へのアンケート調査結果から

(21) フリースクールから見た不登校児童生徒が利用するにあたっての課題

「家庭に課題のある子どもがいるが、家庭への支援までは難しい」が最も多く 38.5%、次いで、「授業料や入会金・初期費用の金銭的負担が大きい」34.6%となっている。

(図表 269)



フリースクール等からの回答では、「家庭の問題」や「金銭的負担」、「様々な支援を必要とする」等、様々な運営上の課題があることが分かった。

2 本モデル事業で実施したアンケート結果（令和6年実施）

本モデル事業において、5つの事業者が児童生徒及び保護者に対してアンケート調査を実施した。その実施方法については、アンケート用紙、WEBアンケート、ヒアリング、朝のサークルの中でアンケート内容についての発言を聞く等と業者によって異なる。ここでは、得られた回答の中からいくつかの項目を示す。

①児童生徒への調査

【通っていてよかったこと】

- ・勉強や困りごとがあれば聞けること
- ・勉強がわかるようになったこと
- ・気持ちが明るくなったこと
- ・家でリラックスできるようになったこと
- ・将来に希望が持てるようになったこと
- ・趣味などが楽しめるようになったこと
- ・行くのが楽しみになった 時間割があるところは学校と似ているけど学校よりは行きやすい 勉強の時間が、自分のできる範囲のものを持ってきてできる 休んでから学校へ戻ると勉強が進んでいて大変だった
- ・生活リズムが整う

通う場があることで、生活リズムが整うといった生活全般のこと、学習することで勉強がわかるようになったこと、他者との交流ができるようになったこと、気持ちが明るくなったり将来に希望が持てるようになったりしたことが挙げられている。加えて、趣味が楽しめるようになったり、家でもリラックスできるようになったりしたことが分かる。

【進路の希望、どのように考えているか】

- ・今の小学校のみんなとは違う中学校へ進学しようと思う
- ・合格した私立中学校に楽しく通いたい
- ・大学で教育系の学部に入りたい・獣医　・E－SPORTSの専門学校
- ・工業系の学校　・現在のフリースクールの中学部設立
- ・高校に入学したい→親からの自立ができるようにしたい
- ・北海道の高校へ行く→心理の大学へ行きたい

全ての児童生徒について共通することであるが、進路については本人が夢や希望を持ち、自分で考えて選択できるように様々な選択肢を早い段階から示すことが大切であろう。併せて、在籍校との情報共有や進路相談といった視点からの連携が欠かせない。

【これからのことで不安なこと、悩み】

- ・勉強のこと　・やりたいことがない　・将来への不安　・友だち関係
- ・中学校をどうするか　・家族との関係
- ・中学校で学習環境になじめるか、勉強についていけるか
- ・中学校で友達ができるか
- ・英語と数学が頭に入らない
- ・高校受験　・ちゃんと自分に合った仕事を見つけられるか
- ・高校入試で面接ができるか不安
- ・自分の力で将来自立できるのか不安
- ・高校に進学して3年間通えるか不安　・高校で生活できるか不安

勉強や進路、高校受験、将来について不安に感じていることが分かる。また友達関係や家族との関係についての悩みも抱えている。このような不安な気持ちや悩みを相談できる場が設けられるとよい。通っているフリースクール等で可能か、難しい場合は、在籍校や公共の相談機関、民間の相談機関をはじめとした様々な相談窓口の情報提供も欠かせない。

②保護者への調査

【フリースクールを利用する上で保護者にとって困っていること、心配に感じていること、及びフリースクールに望むこと等】

- ・料金が高過ぎるのでもう少し安く設定し直してほしい。
- ・イベントや交通費なども実費なのでかなり負担になっています。
- ・利用料金が高いので、県や市と話し合いもう少し助成金などで安く利用出来るようにしてほしいです。
- ・公立学校と同じようにフリースクールに通う子も無償で通えるようになったらいいです。同時にフリースクールへの支援が必要と思います。
- ・しっかりカリキュラムを持って学びが担保されているフリースクールが少ないと感じています。
- ・フリースクールを探すとき、自力で足を運んで探さないと情報が少ないので出会いづらい。
- ・進路への不安
- ・交通手段の不足、交通費の負担
- ・登校時間が早くなるとありがたいです。
- ・保護者の仕事との両立の難しさ ・保護者の心理的 ・身体的負担
- ・保護者会みたいな親同士のつながりも持てたらいいなと思っています。
- ・学習が止まってしまった期間が長いので、学年よりも下の学年から学び直しが必要になります。そのため、本人は学習に対して、多少の劣等感を抱えているのでまず勉強や新しいことを知ることの面白さを教えてもらえたらと思います。
- ・歌うことも好きな方だと思うので、音楽の授業があるといいなとも思ったりもしています。
- ・子どもが安心して通える。子どもにより学校へ行けない理由が違うので、居場所としたい、学ぶ場にしたい等様々なスタイルのフリースクールがあることで選択できるとよいと思う。
- ・いじめがないこと、少人数、フリースクールの職員が子どもたちの発達やいじめや学校問題、子どものトラウマやPTSDなどについて新しく深い理解があって対応できること、子どもの安全、フリースクールの職員が不登校についてできるだけ深く理解し、対応できること。勉強ができ教えてもらえること。

1で触れた県の調査とも重なってくるが、費用面については、多くの保護者が負担に感じている。本来、公立の小中学校に登校していればかからない授業料、通学費用の負担が大きい。利用料金や交通費の助成を始めている自治体もあるが、今後より具体的な検討が望まれる。保護者の負担のみならず、フリースクールの運営にも影響してくるだろう。加えて、保護者の負担という点では、送迎の問題や心理的な負担についても挙げられている。

また、フリースクールの活動内容にも関わってくることはあるが、児童生徒の状況によって居場所型なのか、学習支援に力を入れているのか等、フリースクールに求めるものが異なる。児童生徒の置かれている状況や背景等への十分な理解のみならず、保護者に対しての心理的ケアも求められていることが分かる。

さらに、子どもたちの進路、将来についての不安は大きく、保護者が相談できる場の提供と共に、十分な情報が得られることが大切だろう。保護者に対してだけでなく、児童生徒自身も自分事として捉え、考えていけるような支援が望まれる。

【フリースクールと学校との連携に望むこと】

- ・出席の連携 ・活動内容の共有 ・通知表の評価 ・登校時の配慮
- ・学習（授業）のフォローアップ ・校外学習参加時の対応
- ・友達との関係性の構築
- ・通常の学校と一緒に活動ができるといいなと思っていますが、なかなか子どもたちの心理的ハードルが高そうです。
- ・フリースクール側ではなく、小学校側に課題があると感じています。小学校に通う生徒やその家庭に近隣のフリースクールの位置付けや役割が十分に浸透しておらず、フリースクールに通う子やその家庭は地域社会から切り離されているような状態に感じます。

「連携」については、様々な内容が含まれているため「連携」が何を指しているのかについて十分な共通理解が必要である。フリースクールの運営は、財政面でも職員配置に関しても厳しい状況に置かれている。一方、学校現場も教職員の過重労働が問題となっている。そのような中、児童生徒のより良い支援のためにどのような連携を図っていくべきか、様々な視点から検討を進めていく必要がある。